

○ 首都圏ミートパッカー輸出推進協、ニイチクが新規入会、会員12社に
厳しい環境下、和牛の輸出で一筋の光、輸出の取組みを強化—阿部代表理事

首都圏ミートパッカー輸出推進協議会（代表理事：阿部昌史㈱ミート・コンパニオン代表取締役社長）は24日、東京都立川市のミート・コンパニオン会議室で「第10回定期総会」を開き（リモート出席を含む）、2021年度事業報告・収支報告、22年度事業計画・収支予算などの議案を原案通り承認可決した。新規会員として、(株)ニイチク（東京都江東区、山田彰男社長）が入会。役員選任では、阿部代表理事をはじめ副代表理事の原田智昌氏（原田畜産食品㈱代表取締役）、齋藤義一氏（㈱山梨食肉流通センター代表取締役）ら理事10人・会計監査役1人が再任されたほか、新たな理事に小原和也氏（ネクサス代表取締役）、山田彰男氏が選任された。

同協議会は、日本産食肉の輸出促進と海外でのブランドの認知・確立を図るため、首都圏・関東の畜産生産者・食肉流通事業者らで組織する。21年度事業報告によると、会員施設の㈱アグリス・ワン（埼玉県和光市）について、S Q F認証の更新審査を受け、21年11月26日に認証更新が決定した。山梨食肉流通センター（山梨県笛吹市）では、I S O22000認証の定期審査を受け、21年9月24日に認証維持が決まった。16年から続いている日本食材サポートー店の認定団体としての活動では、22年7月31日現在、バンコクの「日本食ゆう奈」

（1店）と香港のすし店「争鮮迴轉壽司」（27店）、「争鮮外帶壽司」（51店）を認定している。

22年度の事業計画では、▽食肉輸出施設のS Q F（アグリス・ワン）とI S O22000認証（山梨食肉流通センター）の更新審査▽海外

における展示会、商談会への専門家の派遣（タイまたはベトナム）▽海外バイヤー等を招へいした商談（精肉加工・調理技術セミナーにかかる受講者の招へい、販売促進活動にかかる招へい）——などの活動を実施する計画だ。

総会に当たって阿部代表理事は、新型コロナウイルス感染症やロシアによるウクライナ侵攻、円安の進展など、業界をめぐる動向に触れ、「目まぐるしく変化する世界状況だが、あらためて当協議会の皆様とともに、この苦難に力を合わせて海外への輸出の取組みを強固にしていきたいと考えている。和牛の輸出という点では一筋の光が見えている。日本国内では円安の影響により、牛の飼料代が急騰しており、飼料代を販売価格に転嫁することは簡単ではない。国内では多くの牛肉製造業者が利益を出せずにいるが、この円安の苦境のなかで、海外で和牛を好む富裕層により輸出は大変好調にある。21年度の和牛の輸出は537t（/年）、7,879億円もの輸出実績となり、22年度6月までの状況では、21年度とほぼ同じ水準で輸出が進んでいる。和牛の輸入大国として、香港や台湾、タイなどの東・東南アジアを中心にカンボジアや米国の輸入も増え続けている状況にある。中国への輸出解禁が早期に望まれるが、両国間の協議でクリアにすべきハードルが高く、中国市場へ輸出はまだ先になる模様だ」と説明。そのうえで、「世界の先行きが非常に不透明な現代において、当協議会員の皆さんとこの困難な状況を打破していきたいと強く考えている」と協力を呼び掛けた。